

# “Heart to Heart”

第15巻 第2号 (No.45)

発行日 2020年12月1日

心から心へ わかちあう あたたかさ

## 目次:

非日常の日常化	1
療育プログラムのようす	2・3
コラム：自閉症研究の現場から(4)	4
ファミリーデー ホームカミングデー	4
教育センターからのご案内	4

## 非日常の日常化

3～5月まで、巣籠状態だった子どもたち。学校によっては一部オンラインでの授業が行われたところもあれば、プリントが大量に送られてきたただけだったところなど、多くの学校では学習は家庭に一任した形になってしまっており、子どもたちの負担、保護者の負担が大きくなり、そのことが学力格差につながるのではないかと、また、学校閉鎖の間に学び残した学習内容が多く、一斉学習で教師が教えるしかないかと考えてしまい、子どもの理解に関係なく授業が進んでしまうのではないかと。本来、様々な工夫を通して実践され、きめ細かに個に応じられるはずの学びが、教師主導の駆け足授業をしてしまうと、個人差が広がってしまうのではないかと。学級の仲間の高め合いから生じる学習意欲を座席は離していても、認めあい励まし合う学級集団づくりが進められず、教育効果が半減してしまうことなどが心配されました。中でも発達障害の子どもたちにとっては、学校が始まってからの状態がとても気になっていました。この感染力の強いウイルスにより、「非日常の日常化」が形になり徐々にではありますが、以前の状況を取り戻しつつあり、私の心配が杞憂になってきていることを感じています。

発達障害のある子どもたちは、毎日同じ生活をしながら新しいことを少しずつ取り入れ、成長していく傾向があります。学校のない生活から、変化や変更の多い学校生活に戻るのか。また、対人関係や具体的体験の中から学ぶ必要がある発達障害の子どもたちの学びが、いわゆる「3密(密閉、密集、密接)」を避けることで、子どもたちの集団適応力が低下するだけでなく、そうして子どもを隔離することが、周囲の無関心につながらないかなど

## 武蔵野東教育センター所長 計野浩一郎

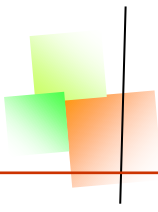
心配の種が尽きない日々の中、センターにできる、センターにしかできないことをこの間、所員と模索を続け実践してきました。

保護者の方々からの相談では、長期の休みで学習習慣が崩れ勉強を嫌がるようになった、読み書き計算能力の低下、睡眠障害、奇声や頻尿等が出た、不規則な食生活や運動不足から情緒不安や肥満になった等の声が聴かれました。そこで、子どもたちの生活を保護者の方々から丁寧に聞き取りながら、変化を見逃さず、不安を軽減することを第一に取り組みました。また、日常生活を取り戻す方法として、これまで以上に家庭での役割を担い、身の身の身支度(身の処理)を自分でし、健康管理をしながら学習に取り組んでいくという生活の基盤づくりに向けた取り組みへの工夫を提案してきました。さらに、センターにおいては、新たな人と人との“間”を大切に集団教育と個に応じた支援をこれまで以上に実践してきたことが、新たな日常を形成し順調な成長につながってきていることを実感しています。

2020年も余すところ1か月。コロナ禍の生活はまだまだ続きます。誰かが困っているときこそ、いたわり合う姿、みんなで力を出し合って困難を乗り越えようとする姿を子どもたちに見せていくことが必要だと思っています。そのことが子どもたちにとって「誰かが必死で守ってくれている」という安心感となり、この難局を元気に乗り越えて、さらに成長していく原動力になるのだと思います。

この冬休みは、家庭での役割をさらに担うチャレンジの日々にしていただけることを願っています。1月に元気な姿を見せてください。





## 療育プログラムのようす 【各教室・言語プログラム】

**リトムーブ教室** 今月は遅延模倣に取り組みました。先生が「おなかをポン」と触った場合、子どもはその後に「はいポン」と言いながら自分の「おなか」を触ります。「先生と違うところにポン」と言われたら、先生と違う体の部位を考え触ります。シンプルな活動ではありますが、テンポよく進めていく中で、見て、考えて、動作しなければなりません。神経を集中させながら「できた」「ちがった」と楽しんでいます。(高橋)



先生と違うところにポン

**コンピュータ教室** 先生を相手にパソコンでメールを送る練習をしています。アドレスや件名の入力などの基本的なメール作成の手順に加えて、「最初に相手の名前を書く」「最後に自分の名前を書く」などのメールのマナーについても学びました。メールの内容は、最近楽しかったことや学校での出来事などについて書いてくれる子が多く、先生からの返信が来ると嬉しそうにしていました。(大澤)



メールの作成

**SST教室** 小1・2年生は、一問一答の「インタビュー」を行っています。質問内容は、『好きな食べ物』『好きな季節』など、答えやすい質問から始めています。一問一答形式なので、回答として「秋です」だけでもいいのですが、進んでいるとその理由まで答える子どもが多いです。少しずつ人前で話す成功体験を積めるように支援していきます。(諸橋)



インタビュー

**音楽教室** 昨年からギターを続けてきた子どもたちは、押さえられるコードやストロークのバリエーションを増やし担当者とアンサンブルを楽しんでいます。エレキギターに挑戦したいというハードロック好きの子どもには、初心者でも親しめる2音構成のパワーコードを伝授しました。初めて手にするエレキギターと、アンプから飛び出してくるヘビーなサウンドに思わず笑みがこぼれました。(平瀬戸)



D7コードを練習中

**幼児絵画造形教室** 落ち葉がきれいなこの季節、絵の具を使って着彩を楽しみました。まずは、それぞれがコップの中に入った絵の具をゆっくりと混ぜていきます。そして、黄色でいちごの葉っぱを塗った後、赤を混ぜるとオレンジ色に！コップの中で色が混ざっていく様子にみんなはくぎ付けです。「赤+(たす)青は？」「むらさき！」絵の具の足し算もできるようになってきました。さあ、次は何色を作ろうかな。(本田)



よく混ぜてね

**体育教室** 今日は少し厚みのあるマットで、段差を生かした前転に挑戦してみました。この練習の目的は、回転後に足の裏で着地する要領をつかむことです(くるぶしではなく)。足の裏で着地ができると、上半身も起こしやすくなるため、回転から起き上がりまでスムーズな前転へとつながります。マット運動の醍醐味でもある回転する感覚を一回でも多く経験させたいと思います。(鈴木)



いち、にの、ごろ〜ん

**ダンス教室** 布や花などの手具を持って踊る練習を行っています。その中でも今はポンポンを使っていて、先生と同じように踊ったり、自由に踊ってみたり、それぞれが楽しく活動に参加しています。今年度は発表会の作品でもポンポンを使う予定なので、「チアガールのように笑顔で元気よく！」を合言葉にして、これからも練習を頑張っていきます。(益田)



笑顔で元気よく！

**言語プログラム** 絵カードを見ながら、ものの名前を文字チップで構成する練習をしています。一文字ずつ並べながら、声に出して読んでいます。普段から耳にしていることばでも、その単語がいくつの音でできているのか、どんな音がどんな順番で並んでいるのかを確認することで、話すことばも明瞭になってくることがあります。しりとりが上手くできないお子さんにもおすすめです。(長田)



文字チップを順番に並べます



## 【スクールプログラム・ラーニングプログラムの様子】

**幼児** クリスマス製作が始まりました。年少は、絵の具スタンプやシールを使いオーナメント作成。年中は、はさみや糊を使いサンタの帽子を作りました。年長は、リング状にした新聞紙に色紙とキラキラの飾りを貼り付けて世界に1つだけのリース作りに挑戦中。子どもたちは、「プレゼントもう決めたよ」「サンタさん早くこないかなあ」と目をキラキラさせながら製作を楽しんでいます。(高橋)



リース作り

**1年生** 図工で「顔の模写」に取り組んでいます。模写を行う際、手本を示し口頭で詳しく教示しても、どこから描き始めてどこで終わるのが分からなくなってしまうお子さんがいます。そこで、紙面に縦横4等分になるよう折り目をつけて、構図の位置関係を視覚的に把握できるように工夫しています。手本と同じ位置や形、大きさに描くことができるように繰り返し練習していきます。(諸橋)



同じ大きさに描こう

**2年生** 算数では「水のかさ」の学習をしました。水筒やポットにはあらかじめ色をつけた水をいれておき、子どもたちがdL mL Lのビーカーを使って計測しました。子どもたちは水筒から出てくる色水がどれくらいなのか興味津々。量比べでは、見た目水筒の大きさと実際に入っている量の違いにもびっくりしていました。こうした体験が今後の生活に役立つきっかけになってほしいと思います。(宮下)



はかってみよう



3年とうげ

**3年生** 国語で物語「三年とうげ」の学習を行いました。音読の活動では、場面ごとの登場人物の気持ちの変化に注意しながら丁寧に読むことに加えて、2人の登場人物が交互に話す場面を友だちとロールプレイ形式で音読したり、歌とリズムに乗せて音読を楽しんだりすることで、物語についての理解を深めることができました。(猪野)



「もみじ」の曲に合わせて

**4年生** 音楽の時間にリズム活動に取り組んでいます。「もみじ」など、4年生の課題曲に合わせて、ウッドブロックを叩く練習を始めました。曲を聞きながら音色の異なる左右のブロックの打ち分けに最初は苦戦していましたが、練習するにつれて、曲や他の友達とテンポを合わせて叩くことができるようになってきました。今後は、よりテンポの速い曲や、四分音符だけでなく八分音符も入ったリズムにもチャレンジしていきます。(柳澤)



タイピング練習

**5年生** 9月からコンピュータを行っています。コンピュータ教室で使用している手袋(個人持ち)をつけてタイピング練習を行っています。今はタイピングソフトを使っての活動が主な内容ですが、個に応じてレベルにあった内容を展開していきたいと考えています。短い時間ではありますが、子どもたちはこの時間を楽しんでいます。(藤本)

**6年生** 体育でバスケットボールに取り組んでいます。ボールを持った状態での模倣や担当者の号令に合わせての両手、片手ドリブルなど着実に上達してきています。友だちとペアになって行うパス交換では相手が取りやすいようにワンバウンドでのチェストパスを練習しています。今後はドリブルしながら走ることや実際のゴールを使ってのシュート練習に挑戦していく予定です。(宮川)



号令に合わせて

**中学生** 数学で平面図形の学習をしています。小学生の頃に学習した内容の復習も織り交ぜながら、指定された図形の対称移動や平行移動をプロジェクターで拡大投影された方眼を使って繰り返し練習しています。プリント学習では、定規の使い方や升目の数え方等、細かいポイントを個々に確認しながら丁寧に作業するように指導しています。(宮川)



対称移動、平行移動

**ラーニングプログラム** 空間認知力、位置記憶力を高めるために、見本と同じようにドットをつなぐ課題を行っています。この課題は書字の前段階としてまっすぐの線を引く練習としても効果的です。ドットの部分を動物や数字にしてわかりやすくしたり、4×4のドットの中に立体図を描く課題にしたり、それぞれの子どもに合わせて難易度を変えることで、楽しく取り組むことができます。(益田)



見本をよく見てね



コラム 自閉症研究の現場から

自閉症と現代社会

千住 淳(ロンドン大学バークベック校教授)

早いもので、私の連載も今回が最終回となってしまいました。この連載を始めた1年前には想像もつかなかった世の中となり、戸惑ったり驚いたりすることばかりです。新型コロナウイルスに有効(である可能性が高い)ワクチンの開発など明るい話題も少しずつ出てきているので、今後良い方向に世の中が動いていくことを祈るばかりです。

さて、最終回となる今回は、これまでの連載を振り返りつつ、自閉と社会との関わりについてさらに考えていきたいと思えます。私が自閉症研究を始めた20年前を思い返すと、当時はいわゆる「冷蔵庫母親説」、母親の愛情不足が自閉症を引き起こすという間違った理論への反省から、自閉症を引き起こす遺伝子や脳の働きなど、いわゆる「生物学的」な原因を解明し、そこを「治療」することが自閉症研究者の大きな目的として挙げられていたように思われます。ちょうど「ヒトゲノム時代」「脳の世紀」と言った言葉は科学界でももてはやされ

ており、自閉症研究もその潮流に乗っていました。

それから20年が経ち、現在ではそれらの「生物学的」な自閉症観や、自閉症を「治療」という考え方にも批判が集まっています。自閉症は生物学的に決まっていた変えられない状態ではなく、(当たり前のお話なのですが)自閉児・者も家庭での学習経験や教育・療育によって成長し、新しいスキルを身につけ、対人行動やコミュニケーションのあり方も発達に伴って変化していくことが改めて注目されました。同時に、自閉症を「治療する」という発想ではなく、自閉を当事者の個性・特性の一つとして捉え、彼ら・彼女らが学校教育や就労、友人関係や家族関係などで抱える困難さに個別に向き合い、当事者の生活の質を上げるための支援や療育を行うべきであろうという主張が、特に欧米では勢いを増してきました。また、自閉者自身も研究や政策決定に主体的に関わり、自分たちの生きやすさのための教育や

職場、社会のあり方について提言し、研究や実践を担うという、当事者参加型の研究や実践も大きく増えてきました。

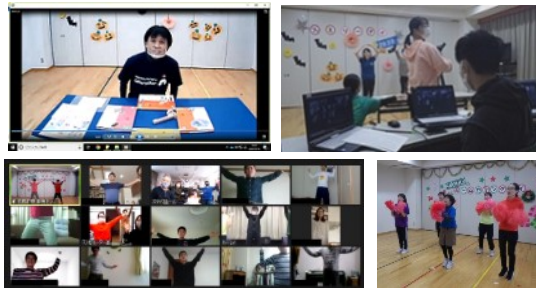


拙著「自閉症スペクトラムとは何か」にて、「自閉症とは定型発達を映す鏡である」と書いたことがあります。対人行動やコミュニケーションの難しさ、他者に理解されにくい感覚やこだわりを抱える自閉児・者の抱える生きにくさや生きやすさは、それぞれの国や地域、それぞれの時代での子育てや教育、就労、人付き合いに対する捉え方、さらには(ニューロ)ダイバーシティに対する世間の態度や社会制度の対応を映し出す鏡なのかもしれません。これからの社会が自閉を持つ当事者や家族にとっても生きやすいものであることを祈りつつ、私も一人の研究者としてできることをコツコツと積み重ねて行きたいと考えております。最後になりましたが、4回にわたる連載におつきあいいただき、ありがとうございました。

このコラムは4回シリーズでお届けしました。

ファミリーデー・ホームカミングデー

今年度はオンラインで、10月18日に幼児・小学生のファミリーデー、11月23日にホームカミングデーを開催しました。初めてのリモートでしたが、大いに盛り上がり楽しい時間となりました。



武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10  
電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595  
Email: education-center@musashino-higashi.org  
URL: http://www.musashino-higashi.org

2021年度療育プログラム申し込み

2021年度療育プログラムの一次募集を行っています。受講希望の方は申込用紙またはウェブサイトのフォームで2020年12月8日(火)までにお申し込みください。資料を希望の方は、電話かウェブサイトのフォームでご請求ください。ご相談や見学も承っております。